

## 1 学校・園における読書活動の推進

### (1) 第2次計画の成果と現状

「読書活動を推進する会」が情報交換を行い、研修を積み重ねてきたことで、読書習慣の定着に有効な朝読書等の取組を、ほとんどの小学校や中学校で実施しており、読書に対する興味や関心を高め、読書の習慣づけを図ることができました。

さらに、学校支援ボランティアやボランティア団体による読み聞かせについても幼稚園や小学校で盛んに行われており、読書の楽しさを味わい、本に親しむ機会が増えてきています。結果、不読率が低下し、自分で読みたい本を選び読書をする児童も増えてきました。

また、学校独自の読書週間や読書月間を設けて、読み聞かせや本の紹介を行うなど、各学校が工夫した取組を行っています。

### (2) 課題

子どもの読書習慣の形成には、身近な学校園等において、子どもの発達段階に応じた環境整備が必要です。

各幼稚園においては、日常的な読み聞かせを行うなど、子どもの読書活動推進に対する意識は高まってきていますが、他の学校園の状況や他の施設のサービスについての情報等は、不足しがちです。

小・中学校においては、朝読書・読書週間等の取組を実施したり、学級図書を充実させたり、子どもが本を身近に感じられる環境整備に取り組んでいますが、学年が上がるにつれて不読率が増加する傾向にあります。

そこで、教職員と学校司書が連携し、学校図書館の充実を図る必要があります。そのために、教職員研修会や情報交換の場を設け、教職員の意識や指導力を向上させる必要があります。

ほとんどの学校に司書教諭が配置されていますが、学級担任や教科担任等他の校務を

兼務しているため、学校図書館の整備や学校図書館を活用した指導計画の展開には十分専念できないという現状があります。

各教科を通じての言語活動の充実を図ることが求められていることから、目的に応じて必要な本を選ぶことができるように、読書活動を充実させ、学校図書館をさらに活用していく必要があります。

資料の整備については、新刊図書を購入する選書や古くなり利用が少なくなった図書等の整理を計画的に行うことが必要です。

### (3) 第3次計画の施策

- ① 学校図書館教育に関する研修会の実施による教職員の意識の向上
  - ・ 教職員の資質向上のため、県立・市立図書館等と連携した研修の充実に努めます。
- ② 読書の意識付けの推進
  - ・ 読書に親しむための啓発活動を推奨し、豊かな読書経験が持てるような取組を推進します。
  - ・ 家庭と協力して「ノーテレビ・ノーゲームデー」を推奨し、子どもの生活習慣の改善に努めます。
- ③ 学校図書館等の資料の計画的な整備
  - ・ 学校・園において多様な読書活動を推進するため、子どもたちの興味や関心に対応した魅力的な図書や、各教科で活用できる図書の整備を行います。
- ④ 学校図書館の資料の有効活用
  - ・ 学校図書館システムを円滑に運用するように努めるとともに、各学校図書館の資料の共有、相互利用の推進を図ります。
- ⑤ 市図書館の資料の有効活用
  - ・ 市図書館と連携して、図書館の資料の貸出を有効に活用し、学校・園の読書環境をさらに充実するよう努めます。

## 2 家庭・地域における読書活動の推進

### (1) 第2次計画の成果と現状

ブックスタート事業を進めることで、本との出あいの機会を提供することができました。また子育て支援の取組の中で、さまざまな施設において読み聞かせを行い、読書の重要性や意義について保護者に周知することができました。その結果、多くの家庭において早くから読み聞かせが行われるようになってきました。

また、読み聞かせボランティア19団体によるネットワーク「ドリームブックネット総社」では、ブックスタート事業のフォローアップとして月に1回「このゆびとまれ」を開催したり、年に1回「おはなしいっぱい子どもの広場」を開いたりしています。それには、子どもや保護者の利用が多く、最近では、父親の参加が増えてきました。

幼稚園や小学校では、学校支援ボランティアや各ボランティア団体による読み聞かせなどをする機会が増えています。読書についてのアンケートにおいても、家庭で読み聞かせをしてもらったことのある子どもたちが増えています。

### (2) 課題

家庭では読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだりする保護者が増えている一方で、読書に対して関心のうすい保護者も多く、保護者の意識を高めるためのさらなる啓発活動が必要です。

急激な情報化の進展の中で、子どもとテレビ・ゲーム・インターネット等との過剰な接触や実体験の不足、心身の健康への影響等が懸念されており、このような状況を改善するための取組を実施することも求められています。

さらに、公民館図書室の図書コーナー等、本に親しみやすい環境を作ることに努め、身近な場所に、楽しんで読める本を置く機会を提供することが必要です。

### (3) 第3次計画の施策

#### ① 家庭への啓発の充実

- ・ 家庭教育に関する学習機会や講座、地域における子育ての場、PTA活動など、様々な機会を通じて、読み聞かせや読書の重要性について理解を促します。
- ・ ブックスタート事業だけでなく、子どもの発達段階に応じた良い本のブックリストを作成し配布するなど、子どもと保護者が一緒に絵本を楽しむ参考になる資料を提供します。

#### ② 家庭の環境づくり

- ・ 「ノーテレビ・ノーゲームデー」等を推奨し、子どもの生活リズムの改善を目指した取組を推進します。

#### ③ 協働による本との出会いを演出

- ・ ボランティア団体と学校・園との協働により、子どもたちが読書やおはなしの楽しさを知るきっかけの推進を図ります。

#### ④ ボランティア団体の連携強化

- ・ ボランティア団体同士の情報交換を密にするとともに連携強化に努め、子どもに本との出あいの場を継続的に提供します。

#### ⑤ 身近な場所への図書コーナーの充実

- ・ 引き続き子どもや保護者の利用が多い場所に絵本コーナーや図書コーナーを設置し、利用の促進を図ります。

### 3 図書館における読書活動の推進

#### (1) 第2次計画の成果と現状

図書館は、「読書活動を推進する会」を定期的で開催して、その中で「ノーテレビ・ノーゲームデー」の運動を推進しました。

また、ボランティア養成講座を継続的に開催していることで、新たにボランティア活動に参加する方が増えてきています。平成26年度からは、幼稚園の預かり保育へも読み聞かせの出前を行うなど幼稚園との連携も深まっています。

図書館見学は、小学校についてはほぼ全校が実施しています。幼稚園についても年々増えてきています。

読書環境整備については、子どもに常に良書を提供することを心がけ、継続的な新刊書の購入や児童書の買い替えを積極的に行いました。また、コーナー本の設置や表示の工夫により、親しみやすく利用しやすい施設づくりに努めました。

さらに、公民館でも子ども向けイベントを開催するなど広報活動を通じて利用促進に努めました。

#### (2) 課題

「読書活動を推進する会」は、本計画を推進していく中で、重要な役割を担っています。市図書館としても、ボランティア団体、学校・園との連携を深めながら、今後もさらなる読書活動を推進するために、相互に協力して会の充実を図る必要があります。

ボランティアの育成も継続して行う必要があります。絵本の読み聞かせボランティアが増えたことにより、幼児・小学校低学年への読み聞かせは充実してきました。しかし、絵本から次の“一人読み”の段階へ移るには、視覚に頼らないおはなしのおもしろさに気付くことが重要です。それに有効な語りやストーリーテリングができるボランティアの育成に取り組む必要があります。

また、本離れが進む世代への支援がより重要となっています。

読書環境の整備については、乳幼児連れの保護者が、他の利用者に気兼ねなく利用できるようにする必要があります。

その他、子どもの読書活動を推進するためには、「ノーテレビ・ノーゲームデー」の取組等、子どもを取り巻く環境の整備も必要であり、家庭の協力なくしてはできない事も多く、大人への読書活動啓発についても併せて取り組む必要があります。

### (3) 第3次計画の施策

#### ① 子ども向け蔵書の整備

- ・ 本の表紙が見える書架を増設し、子どもが本を探しやすい配架や書架の表示を工夫します。
- ・ 良書の整備に努めます。
- ・ 学校図書館と連携し、学校支援図書の収集に努めます。
- ・ 特別な支援を必要とする子どものための資料収集に努めます。

#### ② 啓発活動

- ・ 子ども読書デーや音読大会、読書感想文コンクールなど、子どもが読書活動への興味や関心を深めるような行事を開催します。
- ・ 市内の小中学校による図書館見学を継続し、さらに幼稚園による図書館見学を推奨します。
- ・ 中学生の職場体験や大学生のインターンシップを積極的に受け入れます。
- ・ 読書の喜びや大切さを啓発できるように地域への出前事業の拡大に努めます。

#### ③ 「読書活動を推進する会」の充実

- ・ 「読書活動を推進する会」が中心となって、読書活動推進の取組を実施し、その成果の情報提供をします。
- ・ 映像メディアとの適切な接し方等を考える機会をつくり、少しでも多くの読書の時間をつくり出す取組について検討します。
- ・ 絵本から活字本へスムーズに移行できるようにするための取組について検討します。

#### ④ 広報活動・情報発信の充実

- ・ 総社市学校図書館情報共有ツールを活用して、市内の小中学校との情報交換を促進します。
- ・ 新着図書案内や図書館だよりの内容を充実させ、配布範囲の拡大を図ります。
- ・ イベントや講座情報を広報誌及び情報誌やメールマガジンに掲載するなど広報に努めます。

#### ⑤ ブックスタート事業と子育て支援事業との連携

- ・ ブックスタート事業、「えほんよんで」事業を引き続き行います。
- ・ ブックスタート事業時に配布している「赤ちゃんにおすすめの絵本リスト」

の見直しを行い、内容の充実を図ります。

⑥ 読み聞かせボランティアなどの人材育成

- ・ 読み聞かせの知識や技術を習得するための講習会を開催し、新規ボランティアの開拓を図ります。
- ・ ドリームブックネット総社に属する読み聞かせボランティアグループにさまざまな講座、研修会の情報提供に努めます。

⑦ 公民館図書室の充実及び連携

- ・ 山手、清音公民館の図書の定期的な入れ替えや特設コーナーの設置により、魅力のある配架に努めます。
- ・ 子ども向け行事を開催することにより、図書室の利用促進に努めます。

⑧ 他機関との連携強化による推進

- ・ 市内幼小中学校と連携を図りながら、団体貸出の促進に努めます。

